

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業
中事業	12	主要な取り組み
小事業	03	平和活動事業

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	04300000	市民協働部 ひとつくり
01	総務費	11 市民憲章推進費
-	目標値 -	

インプット	事業実施の背景にある課題	世界では、未だに戦争や紛争により多くの人命や財産が奪われ、改めて平和の尊さが再認識されている。戦争体験者が高齢化してきている今、1人でも多くの若者が平和への思いを受け継ぐことは、未来へ続く平和につながるものとして重要である。
	対象	市民及び西中、東中、双葉中、美濃加茂中の生徒
	目的	平和推進活動として、講演会の開催、長崎市青少年ピースフォーラムへの中学生派遣、広報等での啓発により、世界恒久平和と核兵器のない世界の実現を願い、市民の平和意識の高揚を図ることで、戦争のない恒久平和が達成され、平和で住みやすい美濃加茂市とする。
	概要	平和活動事業の実施 ・長崎市で開催される「青少年ピースフォーラム」へ市内の中学生を派遣し、若い時期から平和の尊さを学んでもらうとともに、その参加体験を講演会の場などで周知することを通じ、広く市民に平和意識の高揚を図る。 ・平和首長会議(H24~)及び日本非核宣言自治体協議会(H28~)への加盟により平和活動事業を推進する。
	事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	956 836 936 978 939
	決算額	60 30 803 207 887
アウトプット	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	100 / 0
	活動指標(単位)	R02 R03 R04 R05 R06
長崎市青少年ピースフォーラム参加者数(人)	目標値	8 8 8 8 8
	実績値	0 0 8 0 8
アウトカム	KPI(単位)	R02 R03 R04 R05 R06
	平和意識を高める平和講演会参加者数(人)	目標値 120 120 120 120 120 実績値 0 0 0 0 0

評価分析	実績	8/8~8/10長崎及び広島に中学生8名を派遣。 10月10日号広報で特集記事を掲載し平和への取組みについて市民に啓発を行った。 11/23市民会議が主催の「みのかもの子どもをたくましく育てるつどい」にて派遣報告会を行った。
	効果	8名の中学生を派遣し、原爆による被害と平和の尊さについて学ぶ機会となった。また、その体験を広報や報告会の場で市民に共有することができた。
	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	予定通り中学生8名を派遣することができた。
評価分析	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	平和講演会は、市民に向けたの平和意識向上を目的とした取り組みのひとつとしていたが、ピースフォーラム参加者による報告会にこれを置き換えることで、これまであまり届くことのなかった若い世代や、その親に対しても啓発できるようになると判断したため、実施しなかった。また、ピースフォーラム参加者の体験も、広報のみのものでの特集掲載のみで、直接市民へ派遣体験を伝える機会がなかったため、ピースフォーラム参加者にどうしても体験を生かすことができると判断した。 今後も平和講演会ではなく、報告会を実施する予定のため、R7以降の指標を「派遣報告会参加者数」に変更する。
	実績からR07年度の事業の方向性	引き続き、長崎市青少年ピースフォーラムへの派遣を行う。 また、子どもをたくましく育てる集いに合わせて派遣報告会を行うことで、様々な目的のために集まった子どもに対して、平和意識を高めていく。

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体 04300000 市民協働部 ひとづくり

大事業	61	6つのまちづくり宣言	政策体系に基づかないその他の事業	KPI	09 教育費	05 社会教育費	04 図書館費
		目指す姿					
中事業	13	主要な取り組み				目標値	-
小事業	21	中央図書館資料等整備事業		目標年度	令和6年度		

インプット	事業実施の背景にある課題	図書館法第三条 図書館の奉仕 を根拠に資料の収集に努めている。美濃加茂市立図書館運営方針では、「市民の生涯学習活動を支援する情報拠点として、多様化する学習要求に応えられるよう図書館資料の充実を図り、ネットワークを活用した市民サービスを推進し、読書普及に努める」としている。				
	対象	市民、図書館利用者				
	目的	資料の収集と読書普及。学ぶ自由を保障し、地域の知的情報活動の拠点となる。				
	概要	あらゆる興味に対応できるよう、特に中央図書館では地域に根差した図書館であることを目指しているため、郷土・地域資料を収集する。  ・郷土資料の収集・整備 ・利用者ニーズに合つ、幅広い分野の資料収集・整備 ・読書普及と利用者サービスの充実				
	事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06				
	予算額	5,787	5,841	5,769	5,820	5,854
	決算額	5,787	5,792	5,764	5,820	5,825
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	32 / 1,167				

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
蔵書更新率(%) (年間受入冊数 + 年間除籍冊数) / 前年度末蔵書数	目標値	4.5	5	5	5	5
	実績値	4.5	2.7	2.5	3.9	3.1

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
貸出冊数(冊)	目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	実績値	61,552	95,180	103,636	100,330	98,957

実績	実績	来館者数：48,824人 貸出冊数：98,957冊 蔵書冊数：148,609冊 (北部分室含む)
	効果	郷土資料の購入を冊数で言えば倍、金額で言えば4倍ほど購入し、コレクションを充実することができた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	前年度は雨漏りでの汚損除籍があったこと。前年度は明らかに除籍しても大丈夫という内容を大幅に除籍したことで、R6年度の除籍は、厳選して行っているため除籍冊数が下回っている。また、購入に関しては1冊の単価が上がっていることと、児童は調べ学習の本を積極的に収集したため、基本単価が上がっている(絵本、小説よりも調べ学習の本は単価が高い)。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	図書購入、除籍冊数とも昨年を下回っていることが、貸出冊数にも影響を与えていると思われる。来館者数が減っていることも原因の一つと思われる。
アウトカム	実績からR07年度の事業の方向性	中央図書館として、よく読まれるから購入するのではなく、市民一人ひとりの趣味、興味、抱える問題はさまざまなもの、多種多様なジャンルから選書、コレクションとして保存していく図書を購入していく。

アウトカム

# 令和6年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	04300000	市民協働部 ひとつくり
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目 KPI	09 教育費	05 社会教育費
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業		-	04 図書館費
中事業	13	主要な取り組み	目標値	目標年度 令和6年度	-
小事業	22	東図書館資料等整備事業			

インプット	事業実施の背景にある課題	図書館法第三条図書館の奉仕を根拠に資料の収集に努めている。美濃加茂市立図書館運営方針では、「市民の生涯学習活動を支援する情報拠点として、多様化する学習要求に応えられるよう図書館資料の充実を図り、ネットワークを活用した市民サービスを推進し、読書普及に努める」としている。
	対象	市民、図書館利用者
	目的	資料の収集と読書普及。学ぶ自由を保障し、地域の知的情報活動の拠点となる。
	概要	あらゆる市民の利用を考え、読書バリアフリー（DAISY、多言語など）にも対応できるよう資料を揃える。 ・利用者ニーズに合う、幅広い分野の資料収集・整備 ・読書普及と利用者サービスの充実
	事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	5,561 5,535 5,442 5,496 5,502
	決算額	5,551 5,532 5,440 5,225 5,499
アウトプット	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	290 / 666

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
蔵書更新率(%) (年間受入冊数 + 年間除籍冊数) / 前年度蔵書数	目標値	6.4	6.4	6.5	6.5	6.5
	実績値	6.5	4.5	4.3	4.7	4

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
貸出冊数〔図書のみ〕(冊)	目標値	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000
	実績値	80,175	113,888	131,190	134,757	128,559

実績	実績	来館者数：90,086人 貸出冊数：128,559冊 蔵書冊数：106,070冊
	効果	読書バリアフリーに対応できる大活字本の蔵書が増加した。 利用者ニーズに合わせた選書を行い、読書普及のための行事や展示を行ったことでリクエスト件数が増加した。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	過去年度にかけて除籍を進めてきたことで、書架に余裕ができ除籍の頻度が下がったため、更新率が下がっていると思われる。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	蔵書更新率が低下しているため蔵書に新鮮さがなく、貸出利用者数及び貸出冊数の増加につながらないと思われる。
アウトカム	実績からR07年度の事業の方向性	限られた予算の中では購入・受入れする冊数に限りがあるため、蔵書構成や利用頻度を見極め、除籍冊数を増やす。 蔵書更新率を上げ、魅力ある書架を作り、「図書館の良さ」を認知してもらえるよう広報活動を行う。

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業
中事業	13	主要な取り組み
小事業	23	図書館利用促進事業

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	04300000	市民協働部 ひとつくり
教育費	05 社会教育費	04 図書館費
-	目標値 -	-



事業実施の背景にある課題	図書館法第三条図書館の奉仕における学校教育の援助、家庭教育の向上に資するためのサービスを提供することが求められている。障害者差別解消法、読書パリアフリー法のもとに、合理的配慮がされた資料の購入が必要である。				
対象	市民、図書館利用者				
目的	利用しやすい図書館を目指し、結果利用者の増加となる。				
概要	<p>図書館運営の全般にわたる事務経費 研修やイベントを開催し、刺激のある図書館が市民の健康寿命の一助となる。 絵本を介して親子のふれあいを大切にするブックスタートを行い将来的に読み聞かせの継続を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタート</li> <li>・イベントの開催</li> <li>・あらゆる人が読書を楽しめるよう資料を購入する</li> </ul>				
事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
予算額	2,184	2,454	2,268	2,162	2,150
決算額	1,963	2,172	2,082	2,052	2,056
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	98 / 642				

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
中央図書館・東図書館及び北部分室の展示の回数(回)	目標値	55	55	55	55	150
	実績値	96	185	166	138	173

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
中央図書館・東図書館及び北部分室の来館者数(人)	目標値					140,000
	実績値					138,910

実績	実績	来館者数：138,910人 中央：48,290人 東：90,086人 北部：534人 展示の回数 中央：88回 東：80回 北部：5回 施設貸出件数 東図書館視聴覚ホール 131件 会議室 266件 和室 76件
効果	効果	美濃加茂市で生まれた（転入してきた）赤ちゃん354人（R7.3月末時点）にブックスタートを行い、絵本に触れる機会を提供できた。 各館の展示回数が増加し、来館者に読書の機会を提供できた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	時事、季節など内容に富んだ展示を行い、図書館通信や図書館公式SNSでそれらの展示をPRしたことにより、来館理由につながった。 *R7より目標値を200回に変更
評価分析	評価分析	前年度を下回っている。北部分室の貸出者数が特に減っている。 三和小学校児童の来室が減少したため。（以前はほぼ全員の児童が昼休みを利用して来室していたが、現在は希望者のみと聞いている）

評価分析	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	図書館の利用を増やすために、館外活動を増やす。 学校行事の見学などの受入れを増やす。 中央図書館は貸出者数は増えているが貸出冊数が減っている。コレクションに耐えうるほどの選書をしつつ、利用者の課題解決の役に立つわかりやすい図書も購入し、魅力的な本棚を構成して、来館者を増やす。 東図書館は入館者数は増えているので、イベントなど継続して行う。北部分室は、地域とのつながりを意識した本の置き、連絡所との連携を継続していく。
評価分析	実績からR07年度の事業の方向性	

インプット

アウトプット

アウトカム

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり
------	----------	-------------

大事業	61	6つのまちづくり宣言	政策体系に基づかないその他の事業	KPI	09 教育費	05 社会教育費	05 文化振興費
		目指す姿					
中事業	13	主要な取り組み				目標値	-
小事業	24	文化活動推進事業		目標年度	令和6年度		

インプット

事業実施の背景にある課題	市民の芸術文化及び社会教育の振興と福祉の増進を図ていくため、文化だけではなく市民の交流の場、活動の場としてのかも~るのカラーが求められる。会場のギャバもあり参加者を大きく増やすことはできないが参加者の満足度を高めることで施設設置の目的を達成する。
対象	市民
目的	市民の芸術文化及び社会教育の振興と福祉の増進を図る。
概要	交流の場として、一人一人が生き生きとした活動の場や発表する環境を提供し、市民活動が活発に行われ市民参加を促進する。 主な事業 ・市民交流の輪が広がる事業。 (ダンスフェスタ、バンドフェスタ、ドリームコンサート、木曾川和音会等) ・市民参加の活動を広げる文芸事業。 (文芸祭、書き初め展等) ・音楽にふれる文化事業。 (文化会館講座等)
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	5,059 7,695 8,524 8,089 12,195
決算額	1,339 2,507 5,624 5,416 11,700
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	2,214 / 3,768

アウトプット

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
音楽普及事業(ドリームコンサート)への来場者数	目標値	2,000	2,000	300	500	500
	実績値	0	2,327	473	665	639

アウトカム

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
事業の満足度(ドリームコンサート)	目標値	80	80	80	80	80
	実績値	0	81.5	74.5	82.6	78.8

↓

実績	文芸祭 応募点数1,204点 書き初め展 応募点数175点 ドリームコンサート入場者数 639人 アンケート満足度 78.8% ダンスフェスタ 17組 出演者数478人 入場者数1,086人 バンドフェスタ 12組 出演者数 37人 入場者数 364人 和音会(和室利用促進事業) 3回開催 参加者数 106人 カルチャー講座 2講座全8回開催 参加者数 10人 ピアノ解放Day 3回開催 117組 参加者数 241人 能登半島地震復興支援コンサート オーケストラ 入場者数 300人 市制70周年記念事業 ジャズ 入場者数 380人
	アンケートで、上質でレベルの高い演奏に高い満足度を得たことや、次回も鑑賞したという声を多数いただくことができ、市民の心の豊かさを創出する一助となった。
効果	洋楽、邦楽、クラシックなど多様な分野の音楽やダンスを提供し、おおむね定員に達する入場者数となった。
	定期的開催のドリームコンサートについて活動指標・KPIとして位置づけていたが、第6次総合計画後期基本計画のスタートに伴い、R7年度からはドリームコンサート以外の自主事業を含めて設定することとする。 活動指標「自主事業数」KPI「自主事業参加者数」
評価分析	内容満足度は80%を超えたが、スタッフ対応満足度は77%であった。満足いただける対応を一層心掛ける。
	定期的開催のドリームコンサートについて活動指標・KPIとして位置づけていたが、第6次総合計画後期基本計画のスタートに伴い、R7年度からはドリームコンサート以外の自主事業を含めて設定することとする。 活動指標「自主事業数」KPI「自主事業参加者数」
実績からR07年度の事業の方向性	ドリームコンサートに参加したい団体も増加傾向にあり、多様な分野の音楽やダンスを提供できる状況にある。HPやSNSなどを活用して、引き続き多くの人々に鑑賞してもらうよう事業展開していく。 R7年度からは、第6次総合計画後期基本計画のスタートに伴い、活動指標をドリームコンサート以外の自主事業を含めて設定することとする。具体的には、ホールでの公演事業、付属棟を活用した音楽会や公演、ピアノ解放、文芸祭、書き初め展など9つの自主事業を中心、参加者増加を目指して、多様な文化活動に取り組む。

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり
------	----------	-------------

大事業	61	6つのまちづくり宣言	政策体系に基づかないその他の事業	KPI	09 教育費	05 社会教育費	04 図書館費
		目指す姿					
中事業	13	主要な取り組み				目標値	-
小事業	25	図書システム広域利用事業(定住)		目標年度	令和6年度		

インプット

事業実施の背景にある課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書を管理するシステムの維持、運営に使用するIT機器の更新には費用がかかります。統合することでコストをあさえる。</li> <li>・資料購入費の維持も難しくなっている。システムを一元化することで、同じ本の購入を避けて幅広いジャンルの図書を購入することができる。</li> <li>・ネットワークを活用した市民サービスを推進し、利用できる館の選択を増やし図書館を身近なものにする。(美濃加茂市と坂祝町は図書館システム広域利用を2011年から実施している)</li> <li>・すばらしい発見が図書館にはあるのに、利用したことがない、馴染みがない、本好きが行くところなど図書館のことを知られない。もっと利用を増やすためにも、蔵書の充実や魅力のあるイベントの企画が必要である。</li> </ul>
対象	美濃加茂市と坂祝町の図書館及び利用者
目的	利便性が高まり図書館の利用が増えることにより、読書普及はもとより情報の拡散、人の交流が活発になる
概要	事務経費の軽減を図るとともに、利用者がより身近に図書館を利用する環境を整備するために、美濃加茂市立図書館・坂祝町中央公民館図書室が、図書資料及び図書館機器等、図書館運営の全般を共同運用する
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	6,009 5,921 5,550 5,261 18,088
決算額	5,673 5,919 5,549 5,260 17,984
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	227 / 441

アウトプット

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
新着図書情報交換、展示資料一覧 交換を行う(件)	目標値		61	80	130	130
	実績値		122	139	132	130

アウトカム

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
貸出冊数(冊) 美濃加茂市で坂祝町民が借りた冊数 + 坂祝町で美濃加茂市民が借りた冊数(個人利用)	目標値		14,860	15,120	15,190	15,220

実績

実績	<b>取組</b> SDIサービス送信のスタート(2024年11月～) (各自キーワードを決めるこによって、そのキーワードに関する新着図書が入荷したときにメールが届くサービス) <b>効果</b> 「大道芸人オマールえび 絵本×大道芸ライブ」 令和6年7月28日(日)・11時～会場：美濃加茂市東図書館101名 14時～ 会場：坂祝町中央公民館33名
----	---

評価分析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	定期的な新刊本の購入にともないそれぞれの館の新刊情報を紙面にして利用者に提供したり、お互いの館の図書館通信を交換し、それぞれの館の利用者に閲覧、配布することで、新着図書の情報やイベント情報をより多くの利用者に周知できた。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	美濃加茂市、坂祝町ともに相互の貸出利用者、貸出冊数が増加した。 - 美濃加茂市で坂祝町民が借りた個人貸出冊数、人数 3月末 冊数：12,631冊、人数：3,336人 (R5) 冊数：11,132冊、人数：2,840人 - 坂祝町で美濃加茂市民が借りた個人貸出冊数、人数 冊数：5,000冊、人数：1,135人 (R5) 冊数：4,927冊、人数：1,130人 これらの数が増加した要因について、 - 坂祝町の新着図書(新刊)が一定期間、坂祝図書室のみでの貸出対応のため、坂祝町に出向く美濃加茂市民がいる - 互いの図書館を同じ図書館カードで利用できることが定着してきた - 在庫予約より、4館(北部分室含む)の本をどこでも好きな場所で受け
実績からR07年度の事業の方向性	R6年度と同様、情報交換と共同イベント開催を継続する。 今年度はイベントの趣向を変え、見て楽しむイベントに加え、読み聞かせに興味のある大人を対象にコツやポイントを学べる講座を企画した。

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業
中事業	13	主要な取り組み
小事業	26	生涯学習情報誌等の共同事業（定住）

## 令和6年度 事業評価書

事業主体 04300000 市民協働部 ひとつくり

05 社会教育費 01 社会教育総務費

目標値 -

目標年度 令和6年度

事業実施の背景にある課題	地域の活性化を図るには、魅力的な人づくり・地域づくりが必要であり、そこへつながる生涯学習活動は重要な役割を担っている。そのため、多様で豊富な学習機会を地域住民に提供できるよう、また、効果的・効率的に事業を推進できるよう、広域での生涯学習情報誌発行やホームページ運営に取り組んでいる。広域での取り組み以前は、市町村ごとに講座情報を提供し、参加者も住民に限定されることが多かった。そのため、講座メニューの広がりがなく、住民の生涯学習機会は限られ、住民の学習欲求を満たしているとは言えない状況であった。また、情報提供は紙媒体が中心で、情報が届くまでに時間と手間がかかるうえ、多くの方が手軽に情報を入手できる手段が必要である。
対象	定住自立圏域の住民（市民）
目的	住民の学習環境整備が進み、学習機会が充実することによって、住民の学習欲求が満たされる。また、学習を通じた住民の交流が進む。
概要	地域住民に多様で豊富な生涯学習機会を提供するため、地域の各市町村で開催される講座情報をまとめて掲載した生涯学習情報誌「学びのとびら」を発行する。また、若い世代を含めた多くの住民が手軽に生涯学習情報を入手できるよう、専用のホームページによる情報提供もおこなう。ホームページには、地域市町村の講座情報のほかサークルや生涯学習関連施設の情報なども掲載し、希望する情報を簡単に検索することができる。
事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	2,543 2,580 2,580 2,126 2,308
決算額	1,295 1,788 1,654 1,782 2,188
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	101 / 10

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
定住自立圏域共同開設講座開講率（%）	目標値	90	90	90	90	90
	実績値	52	78	82	86	82

KPI（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
定住自立圏域共同開設講座受講者数（人）	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000	2,500
	実績値	728	1,822	2,442	2,395	2,292

実績	R6.9 27号発行（4,850部：美濃加茂・坂祝・八百津） R7.3 28号を発行（9,780部：美濃加茂・坂祝・川辺・富加・七宗・八百津・白川・東白川） 生涯学習HP訪問ユーザー延べ件数 23,591件 開講数 252講座
	情報を冊子やHPを通して住民に提供。自治体により、手軽に閲覧できるよう自身の広報媒体（各戸配布ipadなど）に情報誌データを掲載。HPの訪問ユーザー数も年々増加傾向にある。
効果	昨年度から開講率が減少したが、市町村を超えて参加者が多く、高い開講率となった。 定住自立圏内の住民の「学びたい」「始めたい」という意欲の更なる高まりと同時にとそれに沿った事業展開ができている。
	受講者数の増加を目指してR6年度から目標値を上げていたが、R5年度から減少した。講座コロナ禍直前が3000名以上の受講者があったことから、数年先を見据え、直近のR7年度は引き続き2500名の受講を目標とする。
評価分析	KPI分析 目標値の達成・未達成要因
	受講者数、開講率とともにR5から減少傾向が見られた。しかし、HPの訪問ユーザーの上昇しているため、引き続き積極的な情報発信を実施していく。また、可能な限りの講座開講に努め、全体の参加者（受講希望者）を増やす。
実績からR07年度の事業の方向性	

インプット

アウトプット

アウトカム

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業
中事業	13	主要な取り組み
小事業	30	ふるさと検定事業

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	04300000	市民協働部 ひとつくり
09 教育費	05 社会教育費	01 社会教育総務費
-	目標値 -	

インプット

事業実施の背景にある課題	市民がふるさとに誇りをもってまちづくり活動への参加や将来の美濃加茂の発展につなぐための施策が必要である。ふるさとの歴史、文化、風土などについて学ぶことを小学生から大人まで参加することでふるさとである美濃加茂への愛着を深めができる。
対象	・小学生を主たる対象とした市民 ・美濃加茂市に興味・関心のある市外の人
目的	・市民)ふるさと美濃加茂に親しみや関心をもつ市民が育まれ、美濃加茂を愛し、地域の未来を担う人財の育成につながる。 ・市外住民)美濃加茂についての興味や関心を深め、関係人口の増加に寄与する。
概要	小学生(3年生~6年生)を主たる対象として、ふるさと検定事業を展開することによって、みのかもを愛する、地域の未来を担う人財を育む人づくり事業。 ・WEB版ふるさと検定ページの更新・運営 ・WEB版ふるさと検定の学校での活用
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	535 335 527 412 79
決算額	306 194 300 245 35
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	34 / 0

アウトプット

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
ふるさと検定の周知回数	目標値					6
	実績値					4

アウトカム

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
WEB版ふるさと検定挑戦者数(人)	目標値	700	800	900	1,000	1,000
	実績値	802	1,030	346	486	1,106

実績

実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEB版ふるさと検定ホームページアクセス数等 訪問件数: 1,172件 閲覧件数: 2,340件</li> <li>ふるさと検定ドリル(Web版) 訪問件数: 2,657件 閲覧件数: 6,644件</li> </ul>
効果	授業で利用していただけた。

評価分析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	ドリルをWEBにしたことで訪問数が増えた。小学校でタブレット授業が開始したため、アイコンを作成し利用しやすくなった。(小学校3年生以上を対象としている) 活動指標の周知活動目標6に対して4回だったのは、会議への出席は、相手方の会議に割り込む形になるので、できるだけの範囲で出席できた回数である。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	印刷物をなくしたこと、予算を減らすことができた。WEBにしたことで、利用者数が目に見えるようになった。
実績からR07年度の事業の方向性	継続することで、利用者数をみていく。 検定サイトに回答後の感想などを記載するスペースを作るように検討し、利用者の反応を収集していく。

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業
中事業	15	主要な取り組み
小事業	01	人権教育・啓発事業

## 令和6年度 事業評価書

事業主体 04300000 市民協働部 ひとづくり

事業実施の背景にある課題	人権問題自体が複雑で多義にわたり、とても難しい。人権啓発活動で多くの市民に知ってもらう必要がある。
対象	市民
目的	「思いやりの心」にあふれた、人を大切にするまちづくりを目的とする。
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美濃加茂市人権施策推進指針に基づく活動</li> <li>・人権擁護委員の活動補助</li> <li>・人権啓発活動(各種イベント・人権週間等)</li> </ul>
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	565 653 765 553 554
決算額	483 568 729 553 554
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	403 / 0

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
人権啓発活動実施数(回)	目標値	5	5	5	5	5
	実績値	2	7	4	5	5

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
この地域は人権が尊重されているとアンケートで答えた率(%)	目標値	80	80	80	80	80
	実績値	53.8	56.4	50	48.9	49.8

款項目	02 総務費	01 総務管理費	12 諸費
KPI	-	目標値	-
目標年度	令和6年度		

実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権電話相談の周知(ホームページ、広報など)</li> <li>・人権相談の開設(人権擁護委員)</li> <li>・特設相談(年6回)委員延32人</li> <li>・中学生人権啓発作文の募集</li> <li>・保育園啓発活動 2園</li> <li>・人権街頭啓発 委員延べ16人</li> </ul>
効果	人権電話相談の周知(ホームページ、広報など)、特設人権相談(年6回)、中学生人権啓発作文の募集、・保育園啓発活動(2園)、人権街頭啓発などの啓発活動を行い、人権擁護活動の周知を行った。

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	予定通り人権相談や啓発活動を行うことができた。 街頭啓発：ドン・キホーテ、パロー 保育園啓発：加茂野保育園、太田第1保育園 小学校人権教室：山之上小学校
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	達成が現実的でない目標値となっていたため、過去5年間の活動を振り返り、これまでの成果を元にR7以降の目標値を再設定する。保育園や学校への啓発活動は、幼少期からの教育の重要性を認識し、地道に進めているが、すぐに効果が出るものではない。この活動は長期的な視点での成果を期待している。さらに、会議やイベントで即効性のある方法を模索しているが、有効な手段はまだ見つかっておらず、引き続き地道な活動を続けていく。このような努力は重要であり、必要不可欠であると認識している。今後もさらなる手法を検討しながら活動を進めていく。
実績からR07年度の事業の方向性	人権擁護委員による人権啓発活動だけではなく男女共同参画等の事業も含めて、人権に関連する発信を行っていく。

インプット

アウトプット

アウトカム

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業
中事業	15	主要な取り組み
小事業	05	男女共同参画推進事業

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	04300000	市民協働部 ひとづくり
02	総務費	01 総務管理費
07	市民まちづくり推進費	目標値 -

インプット	事業実施の背景にある課題	令和2年度から第3次みのかも男女共同参画基本計画をスタートし、令和6年度に中間の見直しを行った。近年では女性の就業率が増加しつつあり、管理職や指導的地位への登用、意思決定の場への女性の登用など、女性の社会進出への支援が進んでいるが、それに伴い子育ての環境の整備、介護等の支援の充実などが、より課題として挙げられるようになっている。
	対象	市民、家庭、地域、職場
	目的	男女共同参画基本計画に掲げる事業の実施 すべての人の人権を尊重し、責任を分かち合い、性別に関係なく個性と能力を十分に發揮できるような男女共同参画社会の実現
	概要	国の「男女共同参画社会基本法」が掲げる理念を踏まえ、みのかも男女共同参画基本計画を策定し、計画に基づいた各事業を推進する。(啓発活動は定住自立圏事業で行う) ・みのかも男女共同参画基本計画(平成15年3月)策定 ・第2次みのかも男女共同参画基本計画(平成22年3月)策定 ・第3次みのかも男女共同参画基本計画(令和2年3月)策定
	事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	217 209 180 159 231
	決算額	4 68 61 142 225
アウトプット	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	20 / 0

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
男女共同参画推進委員・市民からの 計画推進に関する意見聴取(回)	目標値	3	2	2	2	2
	実績値	1	2	2	2	4

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
地域活動の場での男女が平等である と考える市民の割合(%) R11年度目標値40.0%	目標値	27	24	26	28	30
	実績値	31.9	27.9	22.9	26.9	22.7

実績	実績	電話相談の周知(ホームページや広報など) 男女共同参画ブックフェアの開催 参加者71名(アンケート回答者) 男女共同参画推進委員からの意見聴取
	効果	ブックフェア等を開催することで、男女共同参画に関する啓発活動ができた。推進委員からは、現時点ではまだ十分な効果が現れているとは言えず、目標達成には程遠い部分もある。しかし、聞く人や場所によって反応が異なることが分かっており、そのため特に効果が上がっていないと判明したポイントに対して、今後は啓発活動を強化することが効果的であると考えられる。この知見を基に、さらなる改善に取り組むことが重要であるという意見がでた。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	男女共同参画推進委員会2回開催・ブックフェア、料理講座での意見聴取を実施できた。(定住事業を含む)
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	昨年度より4.2ポイント減少し、目標を7.3ポイント下回る結果となった。啓発事業を行ったものの、多くの市民に対するアプローチができていないことが要因と考えられる。
アウトカム	実績からR07年度の事業の方向性	引き続き、ブックフェアや講演会、広報等を通して啓発を進めていく。広報活動の強化を行う。SNSなどを活用し、情報を発信することも検討していく。また、男女共同参画週間に関係施設等にポスターを掲示したりチラシの設置を行う。市で行うイベントの際にも啓発活動を行う。計画の中にある「女性活躍支援の推進」について第2期総合戦略終了に伴い、「第2期美濃加茂市女性活躍推進計画」を基本とした。「LGBT」及び「SOGI」をそれぞれ「LGBTQ+」、「SOGIE」と表記した。

アウトプット

アウトカム

会計区分	01	一般会計
大事業	61	6つのまちづくり宣言
		目指す姿 政策体系に基づかないその他の事業
中事業	15	主要な取り組み
小事業	18	男女共同参画推進事業（定住）

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	04300000	市民協働部 ひとつくり
01	総務費	07 市民まちづくり推進費
-	目標値 -	

インプット	事業実施の背景にある課題	性別に関わりなくその個性と能力を十分に發揮することができる男女共同参画社会を目指すため、これまで継続して啓発を実施してきたが、依然としてある「性別によって役割分担を決めつけがちな意識」や「DV等の問題」に加え、「性的少数者や性の多様性への配慮」に対する視点も必要であることの発信も必要となっている。また、男女共同参画の考え方は日々刻々と更新されていくため、現状を踏まえた啓発活動を実施していくための情報収集や知識向上が必要である。
	対象	定住自立圏域住民、市町村職員
	目的	性別によって役割を決めつけない考え方の人を増やすことに繋げる。
	概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座、講演会、勉強会等、男女共同参画意識の向上を目的とした事業を実施する</li> <li>◦ 対象：定住自立圏域市町村職員</li> <li>◦ 男女共同参画意識の向上を目的とした事業を企画し、啓発活動を行う。</li> <li>◦ 対象：定住自立圏域住民</li> <li>◦ LGBT等に配慮した文書や環境に関する情報を共有し、改善に繋げる。</li> <li>◦ 対象：定住自立圏域市町村職員</li> </ul>
	事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	460 400 400 400 400
	決算額	20 30 37 215 105
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	48 / 0

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
企画講座・講演会・勉強会等の数（回）	目標値	2	2	2	2	2
	実績値	1	2	2	2	3

KPI（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
固定的性別役割分担意識にとらわれない人の割合（%） アンケートより	目標値		77	77.5	78	78.5
	実績値		78.69	75.6	82.4	81.1

実績	実績	男女共同参画ブックフェア1回（各市町村図書館）を開催。男女共同参画の意識啓発のために夫婦やカップル等での参加を意識したペアで参加する料理講座を川辺町と富加町の2か所で開催し、6組、計12名の参加があった。
	効果	ブックフェアと料理講座を併せてアンケート結果として固定的性別役割分担意識にとらわれない人が80%以上となり、これらの取り組みが性別によって役割を決めつけない考え方を持つ人が増えるきっかけとなつた。
評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	男女共同参画意識の啓発を目的としたブックフェアでは、男女共同参画週間など市町村の事情に応じて、アンケートパネルや関連書籍の展示を行った。また、圏域住民を対象として、2名ペアで参加できる料理講座を2回開催した（富加町・川辺町）。ブックフェアと料理講座の取り組みに対するアンケート結果に基づくと、固定的性別役割分担意識にとらわれないと回答した人の割合が80%を超えた。これにより、性別によって役割を決めつけない考え方を持つ人が増え起きるきっかけが創出されたことが示されている。これらの活動が、圏域住民に対する男女共同参画意識の啓発につながり、地域社会における意識改革に寄与する可能性があると評価される。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	*ブックフェア回答数：402件 *料理講座回答数：12件 ブックフェアアンケートにおいては回答者の83.1%が、料理講座アンケートでは83.3%が、固定的性別役割分担意識について「よくない」または「どちらかといえばよくない」と回答された。これにより、事業参加者への啓発活動が効果を発揮していることが示されている。 これまで圏域全体で活動してきたが、ブックフェアや料理講座などの取り組みにより、各市町村で独立して実施可能な方法を考案することができた。このことは、それぞれの地域における特色を生かしたプロジェクトの展開に寄与するものと考えられる。
アウトカム	実績からR07年度の事業の方向性	令和3年度から始まったブックフェアや、勉強会・講演会を実施し、圏域全体で住民及び職員への意識啓発ができるような事業を行うことができた。これらは各市町村で独立して実施可能なため、それぞれの地域における特色を生かしたプロジェクトを展開できるとよい。

アウトプット

アウトカム